

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)
 (項目5, 7, 8, 9, 14, 15は評価重点項目です)

取り組んでいきたい項目

| 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | (印) | 取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|-----------------|--|---|---|
| 理念に基づく運営 | | | |
| 1. 理念と共有 | | | |
| 1 | <p>地域密着型サービスとしての理念</p> <p>地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている</p> | 町内の一員として諸行事に参加、交流を深めている。(さいの神・バーベキュー大会・敬老会など)又、子供たちの夏休みのラジオ体操の場の提供と参加を共にし、地域との関係性を大切にしたい実行しやすい理念であると思う。 | 地域の住民として、認めていただき、町内で計画する諸行事への参加と協力を更に強化したい。いつでも気軽に訪問いただける雰囲気作りに努めたい。 |
| 2 | <p>理念の共有と日々の取り組み</p> <p>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる</p> | 理念を掲示してあり、職員には日々の引継ぎやカンファレンス時、会議等においては理念を再確認すると共に意思統一に努めている。 | 事業展開は理念が柱となっているので、実践しなければ意味がないように思っている。常に理念を頭に入れながら邁進したい。 |
| 3 | <p>家族や地域への理念の浸透</p> <p>事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる</p> | ご家族には入居説明時、訪問時、又は行事への参加の際に、ケアのあり方と共にお話させていただいている。(ホーム便りの発行)地域の皆様には、G・H主催行事、運営推進会議を通じ事ある毎にお話をし、取り組みを理解していただいている。 | 利用者・ご家族・地域の力を大切にしていきたいためには、理念の浸透と実践が大変重要だと思っている。今後も更に強化したい |
| 2. 地域との支えあい | | | |
| 4 | <p>隣近所とのつきあい</p> <p>管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている</p> | 公民館を散歩時の休憩場所としており、日常的に挨拶している。又町内の一員として各戸と同じ扱いをしていただいている。従って、回覧板はもちろん、一斉掃除、公園整備諸行事に参加し折に触れ事業所の実情を伝えている。 | 年1回の防災総合訓練を町内会全体で行い災害時ネットワークが構築されている。又、町内会長さん自らが時々様子を見に来てくださる。住民の皆様には気兼ねなくお茶のみによっていただけるよう働きかけている。 |
| 5 | <p>地域とのつきあい</p> <p>事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている</p> | 町内の住民として、自治会、行事などに参加させていただいている。又、夏休みは当事業所にて子供達といっしょにラジオ体操を行っている。 | 畑の作物を知らない間に届けてくださったり、子供をつれて散歩にこられたり話し相手に来てくださる方もおられる。今後、今の状況を継続させ更に強化したい。 |

| 項 目 | | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | (印) | 取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|-----------------------|--|---|------|---|
| 6 | 事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる | 行政が開催している認知症キャラバンメイトとして地域の研修会や元気教室に関わり、認知症ケアの啓発に努めている。又、町内の敬老会には入居者も参加させていただくと同時に、職員による出し物等で場を盛り上げ喜ばれている。 | | 人材育成のための研修生受入を積極的に行い、同時に自らがその研修の機会としている。事業所が主催する講習会等に地域住民からも参加していただく |
| 3. 理念を実践するための制度の理解と活用 | | | | |
| 7 | 評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる | 評価の意義や狙いを始め、この評価を機会に更にG・Hの質の向上を図っていくことを、申し合わせている。具体的には、評価委員を中心にスケジュールを作り、全職員に評価の目的を伝えると共に、意見交換をし、まとめている。 | | 自己評価を全職員で行い、日々のケアのあり方と反省の機会にしている。外部評価の結果を全職員に周知し今後のケアに当り更に質の向上を図るよう、自覚と連携を密にしている。 |
| 8 | 運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている | グループホーム運営の現況や利用状況、行事活動等を報告すると共に課題となっている事項ヒヤリング等の状況も報告し、実情を理解していただくと共に、意見をいただいてサービス向上に活かしている | | 運営推進会議の結果をふまえ、更にサービスの質の向上を図るため、委員の意見等真摯に取り組んでいく。 |
| 9 | 市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる | 市有地を借地して、施設を建設した経緯もあり、市の担当窓口との連携は密である。地域包括センターとの連携も図りつつ、介護体制のあり方を検討すると共に地域密着サービスを充実している。 | | NPOとしてこの事業を遂行していくために、更に行政との連携を図っていく。 |
| 10 | 権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している | 成年後見制度については、承知しているが当グループホームでの導入事例はない。市の担当窓口と相談し、弱者の権利が損なわれないように対処していきたい。 | | 機会をとらえ研修等に参加、成年後見制度、地域福祉権利擁護事業等について熟知し利用者の支援に生かして行きたい |
| 11 | 虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見逃されることのないよう注意を払い、防止に努めている | 職員の内部研修の機会をとらえ、虐待の徹底防止に努めることと共に危険性のあるケースの事前防止について、ミーティング等により働きかけ意見統一を図っている。 | | 職員のストレス解消の機会も検討しつつ、虐待を未然に防止していく。 |

| 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | (印) | 取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|-----------------|--|---|--|
| 4. 理念を実践するための体制 | | | |
| 12 | <p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p> | <p>入居相談に当たって、入居条件、支援の範囲、家族の協力の必要性等時間をかけて説明している。過去の事例等を参考に、利用者の立場を基本としつつも、事業所での限界について理解を得るようにしている</p> | <p>利用料金と納入方法(面会を兼ね持参いただくことが基本) 重度化や病院の入・通院対応及び退居、看取り及び医療連携体制に関する現状等、上記に関する事業所の対応、範囲等を詳しく説明している</p> |
| 13 | <p>運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p> | <p>理事長が常勤体制で直接苦情、不満、意見等を聞くことが出来る。利用者の日常生活の中で、直接意見要望を聞いたり言葉や態度から思いを察し、利用者の立場に立った運営を心がけている</p> | <p>運営推進会議に利用者からも参加していただいている。各棟毎に、ケアカンファレンスを毎月実施し、利用者本位の介護に努めている</p> |
| 14 | <p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p> | <p>毎月利用料請求時に、各居室担当より日頃の心身の状況や暮らしぶり、状況変化など文章(手紙)で伝えている 事業所での各行事や暮らしぶりについて、作成した「ホームだより」を同封している</p> | <p>「ホーム便り」を毎月お届けする担当職員の作成する、心身状況、暮らしぶりを手紙で届ける。来訪の際、掲示されている写真や作品を見ていただいている</p> |
| 15 | <p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p> | <p>ご家族にアンケート調査を配布し、直接言えないことも伝えられるようにしている。家族会の設置には至っていない 手紙や訪問の際、気軽に意見を言っていただけるよう、雰囲気作りを努めている。運営推進会議に参加していただいている</p> | <p>アンケート調査による意見の把握 運営推進会議での意見の反映 来訪時、気軽に意見の言える雰囲気作り</p> |
| 16 | <p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p> | <p>全体会議を持って意見を聞いている 運営会議で職員の声を反映させるよう努力している 職員からのアンケート調査により意見をもらっている</p> | <p>全体会議の継続実施 運営会議の随時開催 職員からのアンケート調査と意見提出を促す</p> |
| 17 | <p>柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p> | <p>それぞれの職員の都合、希望も加味して勤務表を作成しているが、状況変化に対応して、必要な時間帯に職員を確保(登録パートも含め)している。 勤務の調整も、柔軟に行っている。</p> | <p>同左</p> |
| 18 | <p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p> | <p>2ユニット間での交流を日常的に行っているため、相互に顔馴染みとなっている 基本的には各ユニットの職員を固定化してはいるが、ユニット間で相互に年1名くらいを異動させ新陳代謝を図っている</p> | <p>馴染みの関係を大事にし、各ユニットの職員の異動は最小限にとどめているが、相互の日常的な交流を行うことにより両棟の職員と利用者との関係を作っていく 離職等に伴う、新しい職員が入る場合も利用者にはきちんと説明紹介をし対応している。</p> |
| 18-2 | <p>マニュアルの整備</p> <p>サービス水準確保のための各種マニュアルが整備され、職員に周知されている。また、マニュアルの見直しが適宜行われている。</p> | <p>各種マニュアルの整備はしているが、見直しの必要のものが一部行われていない</p> | <p>見直しの必要なものは、引き続きやっつけていかなければならない。</p> |

| 項 目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | | (印) | 取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|---------------------------|---|--|------|--|
| 5. 人材の育成と支援 | | | | |
| 19 | 職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくを進めている | 外部研修には、なるべく多くの職員が受講できるようにしている。又、それらの報告は毎月のカンファレンスに行っている。全職員の共有が大切であり日々のケアに生かしていきたい | | 人が人を育てるという作業は、大変であり非常に難しいことである。しかし、事業所のキーパーソンは人材、働きやすい環境が重要であると思っている |
| 20 | 同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている | 市内に「妙高市介護ネットワーク」があり各専門部会がサービスの向上に取り組んでいる GHを運営する他事業所との相互訪問交流を行い、入居者間・職員間の交流の場としている 実習生の受け入れ又、他施設への実地研修を行っている | | 妙高市介護ネットワークの参加(資質向上を図る) 他グループホームとの相互交流を継続 他事業所との相互実習 |
| 21 | 職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる | 日常的に職員のストレスや悩みを把握するよう努めているつもりであるが、まだまだ不十分である カンファレンスにより、一人で悩まない体制作りを強化しなければならぬ 今回はアンケートをとり、職員の気持ちを知り、改善に努めたいと思っている | | アンケートの分析をし改善を図る |
| 22 | 向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている | 理事長も常勤しており、利用者と接したり日常の職員の苦勞、対応を把握している。又、職員が向上心を持って働けるよう、資格取得や研修への参加を積極的に推奨している | | 今後も意見を聞き、体制作りを強化したい |
| 安心と信頼に向けた関係づくりと支援 | | | | |
| 1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応 | | | | |
| 23 | 初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている | できる限り入居前にご本人にお会いし現状を把握するよう努めている。コミュニケーションのとり難い方については、なかなか難しい面がある。 | | ご本人の意思確認が難しい方にも、ご本人の立場に立って判断できるよう資質を高めていきたい。 |
| 24 | 初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている | 訪問やホームにおいていただき、ご家族の悩みや希望、思いをよく聴き、又それを理解するよう努めている。G、Hとしてできることをお話し安心してもらえるようにしている。 | | ご家族により悩みや希望も様々であり、それぞれのご家族の心情をより深く理解するように努めると共に、ご本人の代弁者の役割も果たしていきたい。 |

| 項 目 | | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | (印) | 取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|---------------------------|--|---|------|---|
| 25 | 初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている | ご本人にとって一番ふさわしい生活の場を見極めるようにしている。G・H以外のサービスが適当と判断する時は、他のサービスの情報提供をしている。 | | 自前のサービス以外の様々なサービスについて、日頃から情報収集に努めたい。 |
| 26 | 馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している | 先ず一度ホームに来ていただき、環境や他の方たちと接していただく機会を作っている。その際、楽しく過ごしていただくよう職員も配慮している。又、入居当初は、ご家族と頻りに連絡を取り合い、本人に合った方法で自然に溶け込めるよう全職員で取り組んでいる。 | | 一人ひとり不安に思うこともあり、馴染むペースも違うので、更に無理なく馴染んでいただく為に工夫していきたい。 |
| 2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援 | | | | |
| 27 | 本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている | 人生の先輩として接している。言い伝え・畑仕事・料理の仕方など教えていただきながら、共に喜んだり楽しんでいる。 | | 利用者1人ひとりと話す機会を多くもって、これからも人生の先輩として接していきたい。 |
| 28 | 本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている | 近況報告(月1回)、電話、面会時に本人の状況をお知らせし、状況変化等の見られた時は様子を見にきていただいたり相談にのっていただき協力関係を築いている。 | | 家族や、親戚の方などに気軽に来て頂き、話し合ったり相談にのっていただいている。 |
| 29 | 本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している | 行事(運動会、夕涼み会等)に参加をしていただき、ありのままの様子を見ていただいている。気軽に来ていただいたり、外出・外泊もしていただいている。 | | 更に行事等に参加していただけるように努めていきたい。 |
| 30 | 馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている | 友人、親戚、近隣の方が来られた時は、喜んで受け入れ、会話に加わったりして、次回につなげる様にしている。出かけていく事はしていない。 | | 状況が許されるならば、馴染みの人や場所にて出かけて行きたい。 |
| 31 | 利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている | 居間での席替えなど試み利用者同士の関係がうまくいくよう見守っている。気の合う同士が楽しく過ごせる場面づくりをしている。 | | 気の合う同士が楽しく過ごせていただけるように更に努めていきたい。 |

| 項 目 | | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | (印) | 取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|-----------------------------------|--|--|------|--|
| 32 | 関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている | 退居時にいつでも相談していただくよう声かけしている。退居後も退居先(施設等)への訪問を行っているが、充分とはいえない。 | | 退居後、事情が許されるなら、訪問して元気づける等つきあいを大事にしていきたい。 |
| . その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント | | | | |
| 1. 一人ひとりの把握 | | | | |
| 33 | 思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している | 日々の関わりの中での言葉とか、態度、表情などから、思いを察するよう努めている。小さなことも職員間で情報を共有するよう常に話し合っている。 | | 利用者の担当職員が中心になり、それぞれの情報を共有するように常に話し合っている。 |
| 34 | これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている | ご家族、ご本人、ケアマネ、これまでの利用サービス事業所から情報をいただき、ホームでの生活に取り入れている。 | | 情報が少ないときは、計画作成者を中心に収集している。 |
| 35 | 暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている | 日々のミーティング、引継ぎ、毎月のカンファレンスを通じて、変り易い身体状態を常に把握し、一人ひとりに合った生活をしていただくよう努めている。 | | 日々の引継ぎを重視して、現状把握に努めている。 |
| 2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し | | | | |
| 36 | チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している | 月1回のカンファレンスを通して、職員間の意見を大切にしている。日頃より本人、家族の希望を把握しながら介護計画を作成している。 | | 利用者の担当職員を中心に意見交換をし、又本人・家族の思いを聞きながら、介護計画を作成している。プランは全員が分かるようになっている。 |
| 37 | 現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している | 見直し期間、変化が生じた際家族と話し合い、新たに計画を作成している。今後も、現状に即した介護計画を作成していきたい。 | | 今後も、計画作成者を中心に、本人・家族・担当者で話し合いをして介護計画を作成していきたい。 |

| 項 目 | | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | (印) | 取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|-----------------------------|---|--|------|---|
| 38 | 個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている | 個別ファイルを作成し、日常生活の中での気づきや状態変化を記録し、引継ぎ等で情報の共有をして日々の実践及び介護計画に活かしている。 | | 日々の記録を基に、職員の気づきや意見を計画に活かしている。 |
| 3. 多機能性を活かした柔軟な支援 | | | | |
| 39 | 事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている | 現在は行っていない。 | | |
| 4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働 | | | | |
| 40 | 地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している | 町内会・警察・消防・民生委員等に対し、行方不明・火災災害発生時の協力を依頼し、時々訓練もお願いしている。各種のボランティアの方にも気軽に来ていただいている。学校の運動会や、文化発表会にも招待いただくなど学校等との関わりも大切にしている。 | | 更に地域にある学校等との関わりを高めていきたい。 |
| 41 | 他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている | 利用者の希望により、町内が開催している元気教室に参加、六・十市で行っている足湯、ハスクル(お花教室)等参加している。 | | 他のサービスの情報収集に努め、本人の意向や必要性に応じて、参加をすすめていきたい。 |
| 42 | 地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している | 必要に応じて、地域包括センターと協働している。 | | 必要に応じて、地域包括センターに相談して情報を収集していきたい。 |
| 43 | かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している | 本人や家族の希望するかかりつけ医で受診していただいている。基本的には家族同行の受診となっているが、医師との連携が必要な時は同行させていただいている。現在5名の方が往診に来ていただいている。 | | 更に連携に努めていきたい。 |

| 項 目 | | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | (印) | 取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|-----|--|---|------|---|
| 44 | 認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している | 近くに専門医がないため主治医に相談し紹介していただき、受診をすすめるなど工夫している。 | | 更に主治医に相談しながら専門医との係りを築いていきたい。 |
| 45 | 看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている | 法人の理事に看護師をされている方がおり、相談にのっていただいている。 | | 看護職員の配置を検討している。 |
| 46 | 早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している | 入院された時から、ケースワーカー・看護師と連携をとり定期的に病院へ様子を見に行きながら、受け入れ可能な状態になったときに早めに退院していただいている。 | | 長期入院によるダメージを極力少なくできるよう病院スタッフと連携を図っている。 |
| 47 | 重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している | できるだけ早い段階から取り組んではいるが医療の問題、又はADLの低下により当ホームでの生活が厳しくなった時は、家族の意向や医師の判断をいただきながら行っている。又必要な時は緊急カンファレンスを開き、全員で共有している。 | | * 医療職が不在のため、かかりつけ医の判断が大変大きいので、更に医療との連携を深めていきたい。 * 重度化・終末期のあり方について、入居時にとどまらず早い段階からご家族と相談し、対応方針を決めていきたい。 |
| 48 | 重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている | できる事・出来ない事を整理して家族・かかりつけ医と相談し行っている。 | | 更に早い段階から、本人・家族の意向を聞き、今後の変化に備えて行きたい。 |
| 49 | 住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている | 別の居所に移る場合は極力詳細の情報を提供している。 | | できる限り、詳細の情報を提供するよう努めていきたい。 |

| 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | (印) | 取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|--------------------------------|--|---|--|
| . その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 | | | |
| 1. その人らしい暮らしの支援 | | | |
| (1) 一人ひとりの尊重 | | | |
| 50 | <p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p> | <p>一人ひとりを尊重し誇りやプライバシーを損ねないように、言葉がけに気をつけている。個人情報の取り扱い・守秘義務についても話し合っている。</p> | <p>慣れがプライバシーの侵害につながらないよう、職員間で話し合っている。</p> |
| 51 | <p>利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている</p> | <p>家族から情報をいただきながら、本人の思いができるだけ表れるように努めている。又日々の生活の中で感情や要求が出ることは「良いこと」と捉え接している。接する姿勢は受容を基本としている。</p> | <p>それぞれの理解力や性格をよく知り、更に本人の思いや希望が表せるように、努めていきたい。</p> |
| 52 | <p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p> | <p>極力一人ひとりのペースで生活していただくことを大切に、その人らしい生活をしていただくことを基本にしているが、状況によりで職員側に合わせていただくこともある。</p> | <p>更に一人ひとりの性格や考え方・感じ方などを深く知り、職員の対応方法を深めていきたい。</p> |
| (2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援 | | | |
| 53 | <p>身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている</p> | <p>衣服については、できるだけ本人に聞きながら行っている。理容・美容については本人・家族の希望する方法で行っている。</p> | <p>朝の更衣については、介助の必要な方は、職員が選んでおこなっている。</p> |
| 54 | <p>食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p> | <p>利用者と職員と一緒に調理準備・味付け・盛り付けを行っている。買い物・片付けも手伝っていただいている。又、利用者の食べたいものを聞きメニューに反映している。</p> | <p>利用者の今食べたいものの・好きなものを聞き、誕生日を祝っている。</p> |
| 55 | <p>本人の嗜好の支援</p> <p>本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している</p> | <p>一人ひとりの状況に合わせて硬さ・大きさ・味・盛り付けに工夫している。希望があれば、買い物時に欲しい物が買えることができる。</p> | <p>希望があれば、買い物にお連れしている。</p> |

| 項目 | | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | (印) | 取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|-------------------------------|---|--|-----|---|
| 56 | 気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している | 一人ひとりの排泄パターンをつかみ声かけやトイレ誘導をしている。失禁が増えた時は、排泄チェック表をつけ活用している。職員間でそれぞれの方法を共有している。 | | さりげなくトイレ誘導をしているが、嫌がる利用者気持ちよく排泄していただけるよう更に工夫していきたい。 |
| 57 | 入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している | 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて気持ちよく入浴していただいている。 | | 現在は希望される方はいないが、夜間入浴の希望があった時は対応を考えていきたい。 |
| 58 | 安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している | 日中の活動を充実させ、安心して眠れるように考慮している。眠れない時は、一緒に話をしたりお茶を飲んでゆっくり過ごしていただいている。 | | 更に、一人ひとりのペースに合わせた対応をしていきたい。 |
| (3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援 | | | | |
| 59 | 役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている | 以前に、慣れ親しんでいた暮らしを良く知り、それぞれに合った仕事、台所・掃除・洗濯・畑・縫い物等をお願いして行っていた。 | | 利用者全員の方の楽しみごと、気晴らしをいっているか更に検討していきたい。 |
| 60 | お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している | 本人・家族と話し合い一定額以内を目安に法人の金庫でお預かりして、希望があればいつでも使えるようにしている。ご本人の能力に応じて管理方法を検討している。 | | お金を持つことの大切さと、何かトラブルが起こった時の責任との間で、本来の本人の管理能力を更によく把握して対応していきたい。 |
| 61 | 日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している | 散歩コースを決め職員と一緒に散歩等している。自由に散歩をしたい方については、遠くから見守ったり個別に同行するようにしている。毎日の食料のスーパーへの買い物も交替で職員と一緒に出かけている。 | | 天候が許す限り、ほとんど毎日戸外に出かけている。 |
| 62 | 普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している | 希望があれば出かけるようにしている。 | | 家族と出かけたり、希望があれば職員と一緒に出かけている。個別の外出希望についても、極力応じている。 |

| 項 目 | | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | (印) | 取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|-----------------|--|--|------|---|
| 63 | 電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている | 希望があれば電話をしたり、自由に手紙を出したり、受け取ったりしている。電話が事務所にあるため、自由には出来ないが、ご家族の都合もあるので適宜に判断して対応している。 | | 更に本人の気持ちを大事に支援していきたい。 |
| 64 | 家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している | 暖かく迎えるようにしている。居室・ソファコーナー等でお茶等を出して気持ちよく過ごしていただくようにしている。 | | ホーム外の人達の交流を大切に考え訪問しやすい雰囲気づくりをしている。 |
| (4) 安心と安全を支える支援 | | | | |
| 65 | 身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる | 外部・内部研修を通して理解を深めている。不穩、転倒等の危険性のある方には、コールマットで対応し見守りの中で危険を回避している。 | | 今後も身体拘束をしないケアをしていく。 |
| 66 | 鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる | 日中は玄関・テラス・居室等は鍵をかけていない。 | | 今後も鍵をかけないケアをしていく。 |
| 67 | 利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している | 台所から居間・玄関が見渡せるので所在確認をしながら、安全に気をつけている。夜間は定期的に見回りを行っている。 | | できる限り自由にさせていただいているが、どうしても所在確認が必要な方に対して、職員が手薄になる時間帯は、担当時間を決めて把握に努めている。 |
| 68 | 注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている | 洗剤や包丁など注意の必要と思われるような物は一定の場所に保管している。 | | なるべく普通の暮らしをしていただく中で、危険となるものはないか常に気をつけている。 |
| 69 | 事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる | 一人ひとりの状態に合わせたリスクを把握し、未然に防ぐよう日々の中で情報交換を行っている。 | | それぞれの研修に参加したり、又内部研修を通して訓練したり知識を深めていきたい。 |

| 項 目 | | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | (印) | 取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|----------------------------|---|---|------|---|
| 70 | 急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている | 消防署より救急法の指導を受けている。事故や急変時の対応についてはマニュアルで周知している。夜間一人なので、すえひろの職員との連携も行っている | | 利用者の急変時の対応について、繰り返し訓練し身につけたい。 |
| 71 | 災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている | 毎月防災委員が中心となって想定を変えて避難訓練を行っている。又日頃より町内防災委員の意見を聞いたり、地域の方々の協力を得ている。 | | 町内の防災会組織に入れていただいている。町内会の総合訓練にも参加させていただいている |
| 72 | リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている | 状態変化に伴い、予想されるリスクについてはよく話し合いご家族の理解をいただけるよう努力している。 | | 更に話し合いを進めて理解していただくように努める。 |
| (5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援 | | | | |
| 73 | 体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている | 毎日バイタルチェックを行い、日々の様子を申し送り不安がある時は、家族や医師に相談したり受診していただいている。 | | 体調変化で緊急を要した場合、先生から往診していただいたり、職員が受診に同行したり早めの対応をしている。 |
| 74 | 服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている | 1つのケースに個々のものが入っており、服薬管理(薬の目的・用法等記載されている)についてケースにまとめてありいつでもわかる状態にある。薬の変更があった時は観察し変化を医師につなげている。 | | 更に薬の目的や副作用など理解して、正しい服薬の支援をしていきたい。 |
| 75 | 便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる | 野菜などの繊維質の多い食材を調理したり、ヨーグルトや牛乳を摂るようにし、又体を動かすように体操をしたり、散歩に出かけたりしている。 | | バイタルチェック時に排便の確認をし、個々の排泄パターンをつかみご本人に合った対応をとっている。 |
| 76 | 口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている | 毎食後声かけしたり、見守りをして歯磨きをしている。又必要に応じて手伝いをしている。 | | 歯科衛生士より指導を受ける機会をつくっている。 |

| 項 目 | | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | (印) | 取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|-------------------------|--|--|------|---------------------------------------|
| 77 | 栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている | 一人ひとりの状態に合わせて食事の摂取量を毎日チェック表につけて状態把握をしている。おやつ時・食事のお茶等で水分摂取に努めている。 | | メニュー委員会でバランスを考えた献立作成をしている。 |
| 78 | 感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等) | マニュアルを見たり、外部研修に参加したりしており、新しい情報は、内部会議等で勉強している。うがい・手洗いをし、予防に努めている。 | | うがい・手洗いを周知徹底していきたい。 |
| 79 | 食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている | 毎日、その日の夕食から次の日の昼食までの材料を購入し新鮮なものをいただいている。調理用具は殺菌消毒をしたり、食器乾燥機を利用して衛生に努めている。 | | 更に衛生管理に努めていく。 |
| 2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり | | | | |
| (1) 居心地のよい環境づくり | | | | |
| 80 | 安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている | 季節感のあるディスプレイをして、暖かみのある明るい玄関になるよう工夫している。玄関には手すりがあり、靴が履きやすいように椅子を置くなど工夫している。 | | 安全性について時々点検し整理整頓をしている。 |
| 81 | 居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている | 季節の花や掲示物を飾り、季節を感じられる空間作りに心がけている。又利用者の作品を飾っている。テーブルにも季節の花を置きたいが、食べ物と間違えて食べてしまうため今は置いていない。 | | 生活感の漂う飾りつけや、過剰にならない居心地のよい空間づくりに努めている。 |
| 82 | 共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている | ソファや椅子を置いたり、冬はこたつを設置して思い思いに過ごせるようにしている。 | | 限られた場所で創意工夫をしていきたい。 |

| 項 目 | | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | (印) | 取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|-------------------------|--|---|------|---|
| 83 | 居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている | 布団・家具等、ご本人が使い慣れ親しんでいたものを持参していただいている。 | | 担当職員中心に、本人や家族と話し合っ居心地よく過ごしていただくように、少しずつ個性に応じた部屋づくりをおこなっていきたい。 |
| 84 | 換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている | 朝掃除の時窓・天窓を開け換気をしている。暖房は床暖房になっているので温度差は少ない。各居室にはエアコンがあり、本人に聞きながら使用している。 | | 換気に努めながら臭いの原因をつかみ、解消する努力をしている。どうしても気になる時は、お香や消臭剤等を利用している。 |
| (2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり | | | | |
| 85 | 身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している | 手すりの設置・入浴用具の準備・台所では踏み台を活用・居間では椅子、座椅子、座布団席でそれぞれの機能に応じて対応している。玄関は生活リハビリの必要性に配慮した建築になっている。 | | 身体機能を生かすために、玄関やポーチ・テラスには若干の段差があり日々活かしている。 |
| 86 | わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している | 居室間違いや、トイレの場所が分からないなどについて、その都度ご本人にとって良い方法を考えて対応している。 | | 居室間違いや、トイレの場所が分からないなどについて個々に、ご本人にとって良い方法を見出していく。 |
| 87 | 建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている | 畑・花作りを楽しんでいただいている。夏にはベンチやパラソルを準備しできる限り外気に接して過ごしていただいている。テラスは日光浴や洗濯干し場として活用している。 | | 外も生活の一部と考え自由にホームの周辺に出でいただき、気持ちよく過ごしていただくようにしている。 |

| . サービスの成果に関する項目 | | 最も近い選択肢の左欄に をつけてください。 | |
|-----------------|--|-----------------------|--|
| 項 目 | | | |
| 88 | 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる | ほぼ全ての利用者の | |
| | | 利用者の2/3くらいの | |
| | | 利用者の1/3くらいの | |
| | | ほとんど掴んでいない | |
| 89 | 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある | 毎日ある | |
| | | 数日に1回程度ある | |
| | | たまにある | |
| | | ほとんどない | |
| 90 | 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている | ほぼ全ての利用者が | |
| | | 利用者の2/3くらいが | |
| | | 利用者の1/3くらいが | |
| | | ほとんどいない | |
| 91 | 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている | ほぼ全ての利用者が | |
| | | 利用者の2/3くらいが | |
| | | 利用者の1/3くらいが | |
| | | ほとんどいない | |
| 92 | 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている | ほぼ全ての利用者が | |
| | | 利用者の2/3くらいが | |
| | | 利用者の1/3くらいが | |
| | | ほとんどいない | |
| 93 | 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている | ほぼ全ての利用者が | |
| | | 利用者の2/3くらいが | |
| | | 利用者の1/3くらいが | |
| | | ほとんどいない | |
| 94 | 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている | ほぼ全ての利用者が | |
| | | 利用者の2/3くらいが | |
| | | 利用者の1/3くらいが | |
| | | ほとんどいない | |
| 95 | 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています | ほぼ全ての家族と | |
| | | 家族の2/3くらいと | |
| | | 家族の1/3くらいと | |
| | | ほとんどできていない | |

| 項 目 | | 最も近い選択肢の左欄に をつけてください。 | |
|-----|---|-----------------------|--|
| 96 | 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている | ほぼ毎日のように | |
| | | 数日に1回程度 | |
| | | たまに | |
| | | ほとんどない | |
| 97 | 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている | 大いに増えている | |
| | | 少しずつ増えている | |
| | | あまり増えていない | |
| | | 全くいない | |
| 98 | 職員は、生き生きと働いている | ほぼ全ての職員が | |
| | | 職員の2/3くらいが | |
| | | 職員の1/3くらいが | |
| | | ほとんどいない | |
| 99 | 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う | ほぼ全ての利用者が | |
| | | 利用者の2/3くらいが | |
| | | 利用者の1/3くらいが | |
| | | ほとんどいない | |
| 100 | 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う | ほぼ全ての家族等が | |
| | | 家族等の2/3くらいが | |
| | | 家族等の1/3くらいが | |
| | | ほとんどできていない | |

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

- * 利用者が積極的に地域の行事に参加させていただいたり、地域の方々には事業所での行事に参加していただき、交流を深めている。又理事・ボランティアの方の協力もいただいている。
- * 隣り近所の方たちと挨拶を交わし親しみをもって交流をしている。ご近所で散歩に来られた方には気軽に寄っていただき一緒にお茶のみをさせていただいている。
- * 立地条件もよく、建物の中だけではなく日常的に自然に触れ合うことができている。天候が許す限り能力や希望に応じて散歩に出かけている。
- * 2ユットの利点を生かし、折に触れて利用者・職員ともとても良い交流を図っている。